

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01349

研究課題名（和文）地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討

研究課題名（英文）Re-thinking of transition from Late Bronze to Early Iron Age in east Mediterranean

研究代表者

桑原 久男（Kuwabara, Hisao）

天理大学・文学部・教授

研究者番号：00234633

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,300,000円

研究成果の概要（和文）：イスラエル、テル・レヘシュの第12次発掘調査を実施し、「下の町」において地中レーダ探査で大規模な建築遺構の存在が想定された区域について、発掘調査を実施した。その結果、二カ所において鉄器時代初期に属すると見られる遺構を確認することができた。一つは一般の住居遺構の一部の可能性があり、もう一つは大規模な建物の可能性が考えられた。

また、南レヴァントにおける青銅器・鉄器移行期の様相について周辺地域と比較を行った。その結果、『旧約聖書』の記述と関連づけられてきた南レヴァント地域の歴史像を相対化し、青銅器から鉄器への移行という人類史上の大きな変化を「移行期」の社会状況の中に位置づけ直すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イスラエル、テル・レヘシュの発掘調査成果を軸にした考古学的研究を行い、地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の社会状況の一端を解明できたことは、旧約聖書の記述に捉われない実証的な地域史を提示する試みとして学術的意義があったと考えられる。東地中海地域の大転換期である青銅器・鉄器移行期の様相を研究することで、青銅器から鉄器への移行という一大変革をどう理解するかといった人類史的な問題について新たな理解を生み出すことができた点も意義があったと考えられる。また、同時代の研究に従事する現地の研究者との相互協力をはかり、国際的交流や地域貢献を行うことができた点に社会的意義があったと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The 12th season of excavations at Tel Rekhesh, Israel, was conducted in the "Lower Shelf" of the mound where ground-penetrating radar survey indicated the presence of large-scale architectural remains. As a result, two architectural remains were unearthed which seemed to belong to the early Iron period. One may have been part of the remains of an ordinary dwelling, and the other may have been a large public building.

We also made comparison the transitional phase between bronze and iron period in the South Levant with that in neighboring areas. As a result, we were able to relativize the historical picture of the South Levant, which has been associated with the Old Testament, and to reposition the transition from bronze to iron tools, a major change in human history, within the social context of the "transitional period."

研究分野：考古学

キーワード：地中海 レヴァント 青銅器 鉄器 青銅器時代 鉄器時代 テル・レヘシュ 旧約聖書

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 後期青銅器時代から鉄器時代の移行期に対する理解

東地中海地域では、紀元前 1200 年前後、後期青銅器時代（前 1550 頃～）に栄えたミケーネ文明、ヒッタイト帝国、キプロスおよびシリアの各都市国家が時を同じくして崩壊する。従来、この大変動は、「海の民」の移動が関係すると考えられ、あとに続く初期鉄器時代は「暗黒時代」と長らく表現されてきた。

しかし近年、「暗黒時代」については実態の解明が進み、後期青銅器時代の文化的伝統が鉄器時代に継続すると理解されるようになり、とくに旧約聖書の影響が大きかった南レヴァントにおいても「移行期」の様相の見直しが進んできた。

(2) 青銅器から鉄器への移行の問題

鉄の時代の始まりは、人類史における大きな画期であり、その具体的なプロセスとして、後期青銅器時代（前千年紀後半）にアナトリアのヒッタイト人だけが鉄器とその製作技術を保持し、ヒッタイト帝国による技術独占体制の崩壊に伴って周辺地域に技術が拡散したというテーゼが流布し、永らく定説化してきたが、実はその根拠は薄弱であった。

鉄器が普及したのは、鉄器の青銅器に対する性能的な優位によるのではなく、青銅器の材料（錫）の供給不足に伴うやむを得ない選択だったという有力な仮説があり、移行期の社会状況と関連付けた理解が求められているところであった。

2. 研究の目的

(1) テル・レヘシュの発掘調査

イスラエル、下ガリラヤのテル・レヘシュ遺跡の発掘調査を通して、後期青銅器時代から鉄器時代への「移行期」のさらなる実態解明をはかり、考古学的な証拠に即して当時の社会状況を明らかにすること。

(2) 旧約聖書の歴史像の相対化

旧約聖書の記述の批判的検討を通して、より実証的な地域史像を提示すること。

(3) 周辺地域の様相との比較検討

周辺地域との比較検討を行うことで、より広範な歴史的コンテキストの中に、この「移行期」を位置づけ、相対化をはかること。

(4) 青銅器から鉄器への移行の背景

青銅器から鉄器への移行という人類史上の大きな変化を、「移行期」の社会状況の中に位置づけ直すこと。

3. 研究の方法

(1) テル・レヘシュにおける層位と遺構の分析

テル・レヘシュ遺跡の「下の町」について層位的発掘調査を実施し、出土する遺構を、他の後期青銅器時代、初期鉄器時代の遺構と比較検討することで、都市の構造を追求する。

(2) 土器の様相と地域間交流の把握

テル・レヘシュから出土した後期青銅器時代、初期鉄器時代の土器について分析を進め、編年を確立するとともに、地域間交流の様相と変遷を跡づける。

(3) 周辺地域との比較検討

都市構造、セトルメントシステム、物質文化の様相について、東地中海地域全体に視野を広げた比較検討を行い、地中海成果の政治的・社会的混乱との関係を追求する。

(4) 旧約聖書の背景

旧約聖書、とりわけ「ヨシュア記」「士師記」の記述との食い違いとそうした聖書記述が誕生した背景について考察を行う。

(5) 鉄製品の考古理化学的調査

東地中海地域における初期鉄器時代の鉄製品について考古科学的な調査を含めた研究を進めることで、地中海東岸地域における鉄利用の歴史を再考する。

4. 研究成果

(1) テル・レヘシュ「下の町」の発掘調査

2019年8月、研究メンバーがイスラエルに渡航を行い、テル・レヘシュの第12次発掘調査を実施した。「下の町」において地中レーダ探査で大規模な建築遺構の存在が想定された区域に調査区を設置して遺構・遺物の様相の把握を行った結果、二カ所において鉄器時代初期に属すると見られる遺構を確認することができた。一つは一般の住居遺構の一部の可能性があり、もう一つは大規模な建物の可能性が考えられた（文献 ）。

(2) テル・レヘシュの調査記録の再検討

2020年3月以降、Covid-19による制限を受ける状況になったが、オンラインの各種ツールを利用して研究メンバーが密に連絡を取りながら、テル・レヘシュにおける既往の発掘調査について調査記録の再検討を集中的に行い、各地区における層位・建築遺構と出土土器の関係の整理を行った。2022年8月には、ようやく現地へ渡航することができ、既往の出土遺物の再調査を行った。こうした作業の結果として、東地中海地域の広域で「カタストロフ」があったとされる青銅器・鉄器時代移行期（前1200年前後）をはさみ、テル・レヘシュでは多くの建物が再建され、町が発展している様子を再認識することができた。土器などの物質文化の検討でも、移行期を挟んで継続性を示していることを確認することができた。

(3) 青銅器・鉄器時代移行期の南レヴァントと周辺地域

さまざまな国家や民族の「はざま」、そして考古学資料と文字資料との「はざま」にある後期青銅器時代～鉄器時代初頭の南レヴァントを理解するためには、既存の概念に囚われない多角的な視点からの検証が求められる。より広い歴史的コンテキストの中で南レヴァントにおける「移行期」の様相を理解する必要があるのである。そこで、オンラインツールを利用した読書会を定例で行いながら、研究メンバーが個別研究を分担して進め、その成果を『古代文化』誌上で報告を行った（文献 ）。

キルブリューは、南レヴァントの都市について、1)破壊され放棄されたケース、2)破壊された後に再居住されたが、居住地の性格や文化に変化が生じたケース、3)破壊された後も同様の物質文化を示す居住が継続したケース、4)破壊されることはなく、外来の新たな物質文化をともなう居住地に発展したケースに分類を行っている（文献 ）。本研究では、テル・レヘシュの事例を検討した結果、「破壊されることがなく、従来の物質文化が存続し、居住地が発展したケース」として5つめのカテゴリーを提供すると考えられた（小野塚）。

エジプトについては、後期青銅器時代から鉄器時代初頭にかけて、南レヴァントとどのような関係にあったか、考古学的な証拠、すなわち建築遺構や土器などの物質文化からどのような社会状況が読み取れるのかについて考察を行った（問舎）。

フェニキアについては、テル・カゼル、シドン、サレプタ、テル・アッコ、ドルなど、地中海東岸地域の諸遺跡における青銅器・鉄器移行期の調査研究を整理し、フェニキアに関するステレオタイプ化した理解に疑問が投げられていることを指摘した（橋本）。

ギリシアについては、後期青銅器時代ミケーネ崩壊後の初期鉄器時代について、東地中海地域との対外関係について、アッティア、エウボイア、クレタの三地域に焦点を当てた検討を行い、エウボイアの人々が青銅の原材料を入手するため東地中海方面と深いつながりがあったことが確認された（高橋裕子・研究協力者）。

(4) 鉄利用の歴史

青銅器時代から鉄器時代への移行期における鉄器使用の拡がりについて、アナトリア、キプロス、パレスチナ、シリア・メソポタミアの具体的な状況について検討を行った。その結果、出土資料から見る限り、鉄器が利器として頻繁に使用されるようになるのがキプロスとその対岸のパレスチナであり、青銅器から鉄器の移行の要因は性能によるものではなく別の要因である可能性が考えられた（津本）。

とくにアナトリアについて、「ヒッタイトの鉄」をめぐって、カマン・カレホック出土鉄器の社会的位置付けや製作技術がどのような変容を遂げていったかを検討した結果、初期鉄器時代（前12～前10世紀頃）のキプロスやレヴァントでの製鉄技術の発展が、アナトリアが真の鉄器時代を迎えるため経験したイノベーション・ダイナミクスの源である可能性が仮説として浮かび上がった（増淵）。

(5) エスニック・アイデンティティとイスラエルの起源

南レヴァントにおいて旧約聖書以外の文献資料の光が当たらない「暗黒時代」終了後の南レヴァントには雨後の筍のように小王国が分立することは、「暗黒時代」において各人間集団のエスニック・アイデンティティが先鋭化したことの証左と考えられる。その背景として、エジプトの勢力が衰退した紀元前13世紀末以降に、エジプトからある程度同質とみなされていた南レヴァントの諸人間集団の離合集散が進み、新たなエスニック・アイデンティティが出現もしくは顕在化していった可能性が考察された（長谷川）。

< 引用文献 >

桑原久男・問舎裕生・橋本英将、アナハラトの歴史解明に向けて - イスラエル、テル・レヘ

シュ第12次発掘調査（2019年）第27回西アジア発掘調査報告会報告集、2020
桑原久男編、特輯東地中海地域における青銅器・鉄器時代移行期、古代文化、73 - 4、2022、
21 - 84

A. E. Killebrew, "The Levant in crisis: The Materiality of Migrants, Refugees and Colonizers at the End of the Bronze Age", in: J. Driessen (ed), *An Archaeology of Forced Migration. Crisis-induced Mobility and the Collapse of the 13th c. BCE Eastern Mediterranean* (Presses universitaires de Louvain, 2018), pp. 187-202.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz	4. 巻 131
2. 論文標題 Tel Rekhes 2016: Preliminary Report	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hadashot Arkheologiyot(Online)	6. 最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichi Hasegawa, Hidemasa Hashimoto, Hidetoshi Tsumoto and Takuzo Onozuka	4. 巻 Vol.2
2. 論文標題 The Excavations at Tel Rekhes, Israel: The Results of 2013;2017 Seasons	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 11th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East	6. 最初と最後の頁 115-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原久男・間舎裕生・橋本英将	4. 巻 第27回
2. 論文標題 アナハラの歴史解明へ向けて - イスラエル、テル・レヘシュ第12次発掘調査 (2019年) -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 36-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津本英利	4. 巻 1
2. 論文標題 筑波大学考古学研究所蔵の円盤状柄頭付銅柄鉄剣	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界と日本の考古学 オリーブの林と赤い大地	6. 最初と最後の頁 113-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津本英利	4. 巻 1
2. 論文標題 ヒッタイト帝国の興亡と紀元前1200年前後の気候変動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 気候変動と古代西アジア 古気候から探る文化・文明の興亡	6. 最初と最後の頁 23-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本英将	4. 巻 第28回
2. 論文標題 イスラエル国、テル・レヘシュの「下の町」-第12次調査(2019年)を中心に-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原久男	4. 巻 73-4
2. 論文標題 特輯「東地中海地域における青銅器・鉄器移行期」に寄せて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津本英利	4. 巻 73-4
2. 論文標題 西アジアにおける鉄器時代への移行の様相	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増淵麻里耶	4. 巻 73-4
2. 論文標題 アナトリアにおける鉄器時代の始まり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 37-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本英将	4. 巻 73-4
2. 論文標題 鉄器時代の開始と「フェニキア人」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 間舎裕生	4. 巻 73-4
2. 論文標題 「はざま」としての南レヴァント - 後期青銅器時代～鉄器時代 期 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 58-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川修一	4. 巻 73-4
2. 論文標題 青銅器時代・鉄器時代移行期の南レヴァントにおけるエスニック・アイデンティティ出現 - 「イスラエル」出現を手がかりに -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 73-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原久男	4. 巻 74-1
2. 論文標題 特輯「東地中海地域における青銅器・鉄器時代移行期」補遺に寄せて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野塚拓造	4. 巻 74-1
2. 論文標題 「東地中海における青銅器・鉄器時代移行期」を理解するために	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 37-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichi Hasegawa	4. 巻 11
2. 論文標題 Canaanites, Phoenicians and Israelites: Cultural Dynamics in the Eastern Mediterranean during the Early Iron Age in Light of a Terracotta Mask from Tel Rekhesh	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hebrew Bible and Ancient Israel	6. 最初と最後の頁 177-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz	4. 巻 134
2. 論文標題 Tel Rekhesh 2017: Preliminary Report	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hada shot Arkheologiyot (Online)	6. 最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 橋本英将
2. 発表標題 テル・レヘシュ第12次（2019年）発掘調査報告
3. 学会等名 第26回イスラエル考古学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増淵麻里耶
2. 発表標題 テル・レヘシュ出土の金属製品に関する冶金考古学からの所見
3. 学会等名 第26回イスラエル考古学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hidemasa Hashimoto et al
2. 発表標題 The Efficiency of GPR Survey ;In the Case of Excavations at Tel Rekhesh
3. 学会等名 American Society of Overseas Research Annual Meeting 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takuzo Onozuka, Hidemasa Hashimoto, Hisao Kuwabara and Shuichi Hasegawa
2. 発表標題 Anaharath, Amarna Letters (EA237-239), and Tel Rekkhesh
3. 学会等名 American Society of Overseas Research Annual Meeting 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hidemasa Hashimoto, Hisao Kuwabara, Takuzo Onozuka and Shuichi Hasegawa
2. 発表標題 Excavation at [the] lower shelf of Tel Rekhesh, 2006-2010, 2019
3. 学会等名 The 12th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East, Bologna (online)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 津本英利
2. 発表標題 西アジア鉄器時代移行期の鉄器使用状況に関する最近の研究
3. 学会等名 アコリス考古学プロジェクト研究会（オンライン発表）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hidemasa Hashimoto, Takehiro Hatsumura
2. 発表標題 Methods for studying ancient scale (lamellar) armor in Japan and its possible application to the archaeology of the Levant
3. 学会等名 ISF-JSPS Joint Research Program “Urbanism and Technological Innovation: A view from Ancient Israel” （国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Rekhesh Project日本語サイト http://rekhesh.com/jp/about-the-site
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	間舎 裕生 (Kansha Hiroo) (00733114)	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・文化遺産国際協力センター・アソシエイトフェロー (82620)	
研究分担者	津本 英利 (Tsumoto Hidetoshi) (40553045)	(財) 古代オリエント博物館・研究部・研究員 (72601)	
研究分担者	増淵 麻里耶 (Masubuchi Mariya) (50569209)	京都芸術大学・芸術学部・准教授 (34319)	
研究分担者	長谷川 修一 (Hasegawa Shuichi) (70624609)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	橋本 英将 (Hashimoto Hidemasa) (80372168)	天理大学・文学部・教授 (34602)	
研究分担者	小野塚 拓造 (Onozuka Takuzo) (90736167)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員 (82619)	
研究分担者	巽 善信 (Tatsumi Yoshinobu) (60441432)	天理大学・参考館・学芸員 (34602)	
研究分担者	日野 宏 (Hino Hiroshi) (20421290)	天理大学・参考館・学芸員 (34602)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------